

令和5年度 江東区立第二亀戸小学校 自己評価表

校長名 小野 春彦

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		豊かな心と素直で思いやりのあるこどもの育成			
項目	努力指標(教師側)	達成度	成果指標(こども側)	達成度	評語
1	互いのよさを見付け、認め合う活動を取り入れ、支持的風土、所属感、満足感の味わえる温かい学級経営、専科経営を全教員が実施する。	94	安心して過ごすことができ、自分の居場所があると回答する児童を90%以上にする。	95	A
2	多様性を受け入れる交流活動(異学年交流活動)を、計画に基づき全学年で実施する。	91	「いろいろな人(異学年、幼稚園児、中学生)と触れ合うことが楽しい」と回答する児童を90%以上を目指す。	100	A
3	人権教育及び道徳教育全体計画に基づき、全教育活動を通して人権尊重教育を推進するとともに、道徳の授業を充実させる。	100	道徳の時間にいろいろなことを考えることが楽しいと回答する児童を90%以上にする。	89	B
4	校内外で様々な人にすすんで挨拶ができるよう日常的に指導を徹底する。	94	「気持ちの良い挨拶をしている」児童の回答を95%以上にする。	85	B
5	日常の体制の他に、相談週間、児童主体の取組をそれぞれ年間3回設ける等、担任やSCによる教育相談体制を充実させ、いじめ、不登校、問題行動等を未然に防止する。 いじめの早期発見、早期対応・解消をするために学校いじめ対策委員会に報告し、いじめ防止基本方針に基づく組織的対応をする。	100	・「先生などに気軽に相談できる」児童80%以上を目指す。 ・「いじめはどんなことがあっても絶対にしてはいけない」と回答する児童を100%にする。	99	A
6	「二亀小のきまり」を月1回振り返らせ、児童の規範意識を高める。	91	「二亀小のきまり」を理解し、守ることができる児童の肯定的評価を90%にする。	89	B

<結果についての分析と改善策>

- ・児童が互いのよさを見付け、認め合う活動を通して、所属感や満足感の味わえる温かい学級経営、専科経営が充実してきている。学校全体で支持的風土が定着してきたことで、項目1において、児童の達成度が昨年度より20ポイントほど高まった。一方で、児童への接し方や指導の仕方などについては教職員により差が見られる場合がある。指導については引き続き共通理解を図り、組織的に対応していく。
- ・「相談において週間」を設ける等、教職員の誰にでも気軽に相談ができる体制であることを児童に周知するとともに、SC、SSW を効果的に活用できるようにした。また、いじめや不登校、問題行動等への対応を組織的にを行うことを徹底したことで、未然防止を図ることができ、達成度も高まった。
- ・感染症対策による活動の制限がなくなったことで、異学年交流活動等の充実を図ることができた。また、全学年において、併設幼稚園との交流活動を計画的に実施したことで、児童の肯定的評価を高めることができた。
- ・教職員が「二亀小のきまり」について改めて共通理解を図ったことで、どの学級や学年でも同様の指導を行うことができるようになり、児童の規範意識を高めることができた。きまりを守ることに個人差が見られるため、児童会活動等を通して、児童が主体的にルールやマナーを守ることができるような取組を行っていく。

重点領域2		確かな学力の向上 自ら学び進んで実行するこどもの育成			
項目	努力指標(教師側)	達成度	成果指標(こども側)	達成度	評語
1	「学年の漢字・計算力」を定着させる指導、指導資料を活用し、「国語、算数、英語スタンダード」の内容を身に付けさせる指導を全教員が実施する。	76	「授業が楽しく、よく分かり、学習したことが身に付いている」児童の肯定的評価を95%以上にする。	92	A
2	<p>・1単位時間の授業スタイルの徹底、課題解決学習の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びを促す授業」(できる、楽しい、関わりのある授業)を実施する。学習内容に応じ、タブレット端末やICTを有効活用する。(教育支援ソフト等を活用し、家庭学習との連携を図る)</p> <p>・全学年、道徳の交換授業、個々の教員の専門性に応じた単元担当制、教科担当制による交換授業の実施をする。</p>	96	<p>「友達と話し合い、問題を解決したり、新たな課題を発見したりする学習が楽しい」児童の肯定的評価を90%以上にする。</p> <p>「タブレット端末を使った学習は分かりやすい」児童の肯定的評価を95%以上にする。</p> <p>「学年の先生など、担任以外の先生の授業は、よく分かる。楽しい。」児童の肯定的評価90%以上を目指す。</p>	91	A
3	<p>・各教科等の学習で学校図書館を活用させ、100%利用できるようにする。</p> <p>・図書室の整備・充実を図るとともに、朝読書や年1回の読書月間を設定する。また、保護者ボランティアによる読み聞かせを行う等、全学年で読書活動を推進することにより、児童の読書量を増やす。</p>	86	「読書が好きで、よく本を読む」児童の肯定的評価85%以上を目指す。	84	B
4	「学び方スタンダード」の8つの項目についてすべての児童に身に付けさせる指導を100%実施する。	83	「学び方スタンダード」の8つの項目について、身に付ける児童90%以上を目指す。	87	B
5	家庭学習の課題を出し、自主学習に取り組むことができるよう働きかけている。	93	チャレンジウェンズデーなどを活用して、自主学習に取り組む児童を85%以上にする。	82	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学びを促す授業」について、教職員の意識や理解の高まりが見られた。昨年度と比べて課題解決学習の充実を図ることができたことが、児童の肯定的評価へとつながった。引き続き、「二亀小日常授業モデル」を意識した授業を推進する。 ・どの教科等の学習においても、タブレット端末やICT機器を活用することができたが、使用頻度や活用方法については教員により差が見られる。校内研修や校内 OJT 等を通して、タブレット端末やICT機器を効果的に活用した授業改善を図れるよう、組織的に計画していく。 ・道徳の交換授業、個々の教員の専門性に応じた単元担当制、教科担当制による交換授業の実施については、年間計画に基づき、児童の実態や発達段階に応じて実施することができた。 ・学び方スタンダードの定着については、児童や教職員に年間を通してはたらきかけてきたが、依然として学級による差が大きい。次年度も、年度当初にこうとう学びスタンダードについて共通理解を図るとともに、授業改善に向けての研修を積み重ねていく必要がある。 					

<様式1>

重点領域3		体力の向上、健康の保持増進 心身ともに、健康な子の育成			
項目	努力指標(教師側)	達成度	成果指標(こども側)	達成度	評語
1	体育の授業では、「わくわくタイム」を確実に取り入れ、工夫・改善を図っている。	96	「体育の授業や休み時間に元気いっぱい運動している」児童を90%以上にする。	97	A
2	オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、アスリート出前授業、パラスポーツ体験を実施する。	100	障害者への理解、スポーツへの関心や興味が高まった児童を90%以上にする。	80	B
3	・食育指導を実施し、健康のための食事についての意識を高める。 ・養護教諭を中心とした歯磨き指導、手洗い指導、発育指導、疾病予防指導、アレルギーに関する指導(全学年)を実施する。	91	自らの健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣についてよく考えた児童90%以上を目指す。	87	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を通して、学校全体で体育科の授業改善に取り組んだことで、教職員や児童の肯定的評価が高まった。授業では、どの学級でも「わくわくタイム」を確実に取り入れ、工夫・改善を図ることができた。休み時間は、校庭や体育館の使用割り当て回数を増やし、運動量を増やす取組や工夫を行うことができた。 ・全学年において、アスリート出前授業やパラスポーツ体験等を実施した。4年生においては校内ポッチャ大会及び「こうとう☆ポッチャフレンドリーマッチ」等を通して、障害者への理解、スポーツへの関心をより高めることができた。 ・基本的な生活習慣の定着や食育指導については、担任による学級指導、養護教諭による保健指導を充実させ、保護者と連携し、改善を図った。学校保健委員会を参集型で実施し、食育について保護者及び児童に啓発することができた。 					

重点領域4		地域の教育力を活かした教育の推進			
項目	努力指標(教師側)	達成度	成果指標(こども側)	達成度	評語
1	保護者や地域に教育方針や、学校の様子を伝えるために、校門横掲示板、廊下掲示板は月1回、ホームページは週1回以上更新する。	86	・「開かれた学校づくりに努めている」の項目で保護者の肯定的評価90%以上を目指す。 ・「学校での出来事を家で話している」児童85%以上を目指す。	98	A
2	地域学校協働本部を有効に機能させ、地域の施設や人材の活用を進める。また、地域への理解を深めるとともに地域の一員である自覚を高め、郷土愛・愛校心を育む。	83	「母校や地域が好きである児童」を95%以上にする。	79	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり」について保護者の肯定的評価は98%であり、昨年度より10ポイントほど高まった。コロナ禍後に、保護者が来校する機会が増え、個人面談や保護者会等で各家庭との対話を深めることができた。また、昨年度と比較すると、学校ホームページやメール配信、クラスルーム等で情報を発信することができたが、改善の余地は残った。学校から情報発信をする頻度を上げられるよう、より組織的に取り組んでいく。 					

<様式1>

重点領域5		安心・安全な学校づくり			
項目	努力指標(教師側)	達成度	成果指標(こども側)	達成度	評語
1	計画に従って、全学年で安全指導を確実に実施する。	94	安全に関する意識が高まった児童を100%にする。	98	A
2	避難訓練、セーフティ教室、薬物乱用防止教室を100%実施する。	100	避難訓練や安全の学習に真剣に取り組む、自分の命を自分で守ろうとする児童100%を目指す。	98	A
3	いじめの未然防止・早期発見・対応のための体制を整え、いじめのアンケート調査、ストレス・怒りをマネジメントする指導を100%実施する。	96	いじめ・不登校・問題行動の発生率を昨年度より低くし、解消率を上げる。	87	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や安全の学習への取組については、昨年度と比べ、児童の肯定的評価がより高まった。毎月の避難訓練に真剣に取り組む姿勢が見られている。 ・児童への安全指導のみならず、日常の点検、施錠、施設の安全、不審者対応等、学校の安全管理を徹底して実施していく。 ・いじめ、不登校、問題行動等の未然防止、早期発見・的確な対応を組織的に行うために、年間3回校内研修会を行った。日頃から全教職員で情報を共有して指導に当たるとともに、いじめ防止基本方針を基に、組織的に対応を行っている。教員はいじめに気付くアンテナを高くし、早期発見、早期対応、組織的対応をしていくことの重要性を理解している。 					

【評語】成果指標(こども側)の達成度に応じて決定する。

A:90%以上(目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する)

B:50%以上90%未満

C:50%未満(目標や努力指標等を見直す)